

市政トピックス

いじめ等相談支援室S-KEET(エスケット)を開設

市では、いじめ等に悩む児童・生徒や保護者の方のための相談窓口「いじめ等相談支援室S-KEET」を、6月1日に開設しました。相談のしやすさを考慮して、青葉区一番町の民間ビル内に相談室を設置し、放課後や土曜日にも対応します。児童・生徒本人だけでなく、保護者が子どものことで相談することもでき、学校などには打ち明けづらい悩みの相談にも応じます。相談は、常駐する相談員が電話やメールで受け付け、その後弁護士や学識経験者である専門員とともに面談等を実施。また、相談内容により、医師や臨床心理士等が、アドバイザーとして支援策を検討します。

相談者に寄り添いながら、相談者への助言や、必要に応じて児童・生徒の思いを周囲に伝えることなど、解決に向けた支援を行います。悩みや不安を抱え込まず、ぜひお気軽にご相談ください。

仙台市いじめ等相談支援室S-KEET(青葉区一番町4-7-17SS・仙台ビル8階)
☎0120・3003・8366、
Eメールs-keet@city.sendai.jp

市政トピックス

市立学校で始業式・入学式が開催されました

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休業していた市立学校等が6月1日に再開し、1日・2日に、各学校で始業式や入学式が行われました。

沖野中学校では、密集・密接を避けるため、始業式は各教室で放送により実施。137人の新入生を迎えた入学式では、規模を縮小し、参列者を新入生、保護者、教職員のみとしたほか、席の間隔を空けるなどの対策がとられました。

新入生代表の佐藤愛歩さんは「行事などでたくさん思い出をつくりたい」、金野直央さんは「特に部活動を全力で頑張りたいです」と述べ、他の新入生とともに、これからの学校生活への決意を新たにしました。



▲沖野中学校の入学式。新入生代表の2人は、マスクを着用し代表の言葉を述べました

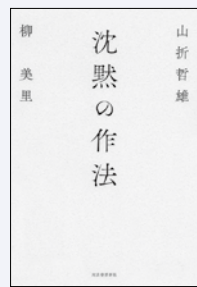
市政トピックス

3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本を、紹介します。

少し黙って欲しいときに読む本
吉野作造記念館主任研究員 小嶋 翔

「沈黙の作法」



山折哲雄・柳美里／著
河出書房新社 刊



柳美里／著
文藝春秋 刊

「飼う人」

「コロナ禍」の昨今、妙な既視感で疲労を覚えたときに読むと、少し心が澄む気がします。既視感とはたぶん、震災の後に目撃した、あの無雑作な言葉の氾濫。TVとかインターネットとか。

震災後、作家・柳美里は南相馬でのラジオ番組「ふたりとひとり」で、津波被害に遭った人を2人ずつ招きます。話すのは体験を共有する「ふたり」(夫婦、友人など)。柳は自分がどこまでも当事者でないことを突きつけられ、ただ聞き手として沈黙することを自分に科します。

しかし、それ以上に沈黙を強いられたままの震災の死者。「死者の沈黙より軽い言葉を発してはならない」と、沈黙の中で

つと言葉を探し続ける柳…。

「飼う人」は、そんな柳による震災後の短編作品集。各編の主人公は、芋虫やウーパールーパーなど、ほとんど動かない生物の飼育に取り憑かれます。動かぬ者をじっと見つめる沈黙が、日々の暮らしの中で傷つくことに慣れてしまった自分を露わにしていけます。その先に救いがあるのかは、分かりませんが。

反射的な言葉が溢れる時代には、沈黙のための道具が必要になります。芋虫が苦手なら、『沈黙の作法』からお好きなものを見つけてみましょう。京都・広隆寺の半跏思惟像とか、ワキ方能楽師の背中とか。収束したら見に行きたいものです。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585